



▶ MAKING THE WORLD
A BETTER PLACE

決算説明資料

Financial results briefing materials

2023年3月期 第3四半期

インヴァスト株式会社

The background of the slide is a blurred photograph of a modern office space. Several people are visible, some walking and others sitting at tables, suggesting a busy, collaborative environment. The office has a high ceiling with exposed pipes and modern lighting fixtures. A large, dark, rectangular pillar is in the foreground, and a curved wooden table is visible in the background.

業績サマリー [2022.4-12]

業績 | 2022.4 – 2022.12

FX取引の需要増により営業収益は堅調に増加。一方、新サービスへの積極的な広告施策等や事業拡大のため人員増加等による販管費の増加およびファンド損失の影響により減益となった。

単位：百万円	2022年3月期 1Q-3Q(2021.4-12)	2023年3月期 1Q-3Q(2022.4-12)	対前年同期比 増減率
営業収益	3,749	4,462	+19.0%
純営業収益	3,667	4,184	+14.1%
営業利益	666	323	△51.4%
経常利益	946	228	△75.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	610	106	△82.6%

セグメント別業績 | 2022.4 – 2022.12

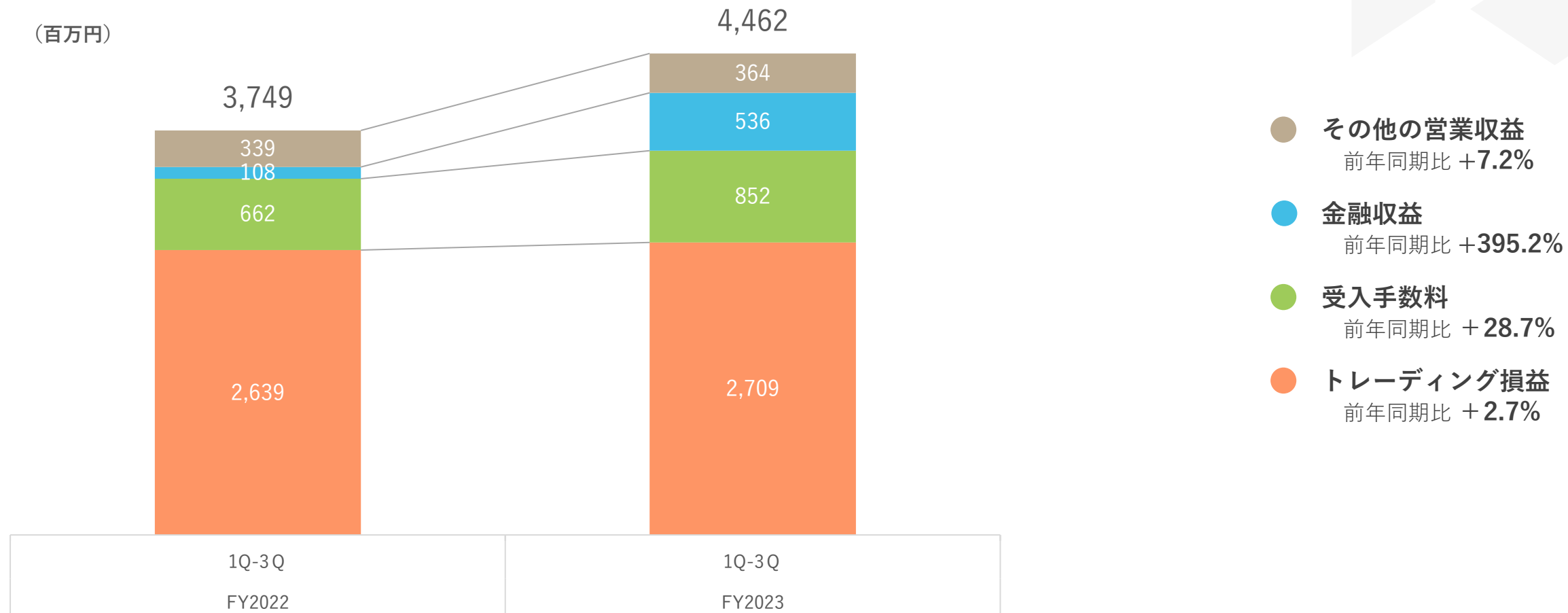
国内事業は新サービスのリリースおよび積極的な広告施策等により減益となったが、海外事業は事業拡大により増収増益となり、グループ全体の売上比率40%超に成長。

単位：百万円		2022年 3 月期 1Q-3Q(2021.4-12)	2023年 3 月期 1Q-3Q(2022.4-12)	対前年同期比 増減率
国内金融事業	純営業収益	2,350	2,351	+ 0.0 %
	営業利益	455	93	△ 79.5 %
海外金融事業	純営業収益	1,370	1,941	+ 41.7 %
	営業利益	233	309	+ 32.7 %

※海外金融事業は決算日が12月末日のため、第1～第3四半期は2022年1月1日～2022年9月30日の実績値となります。

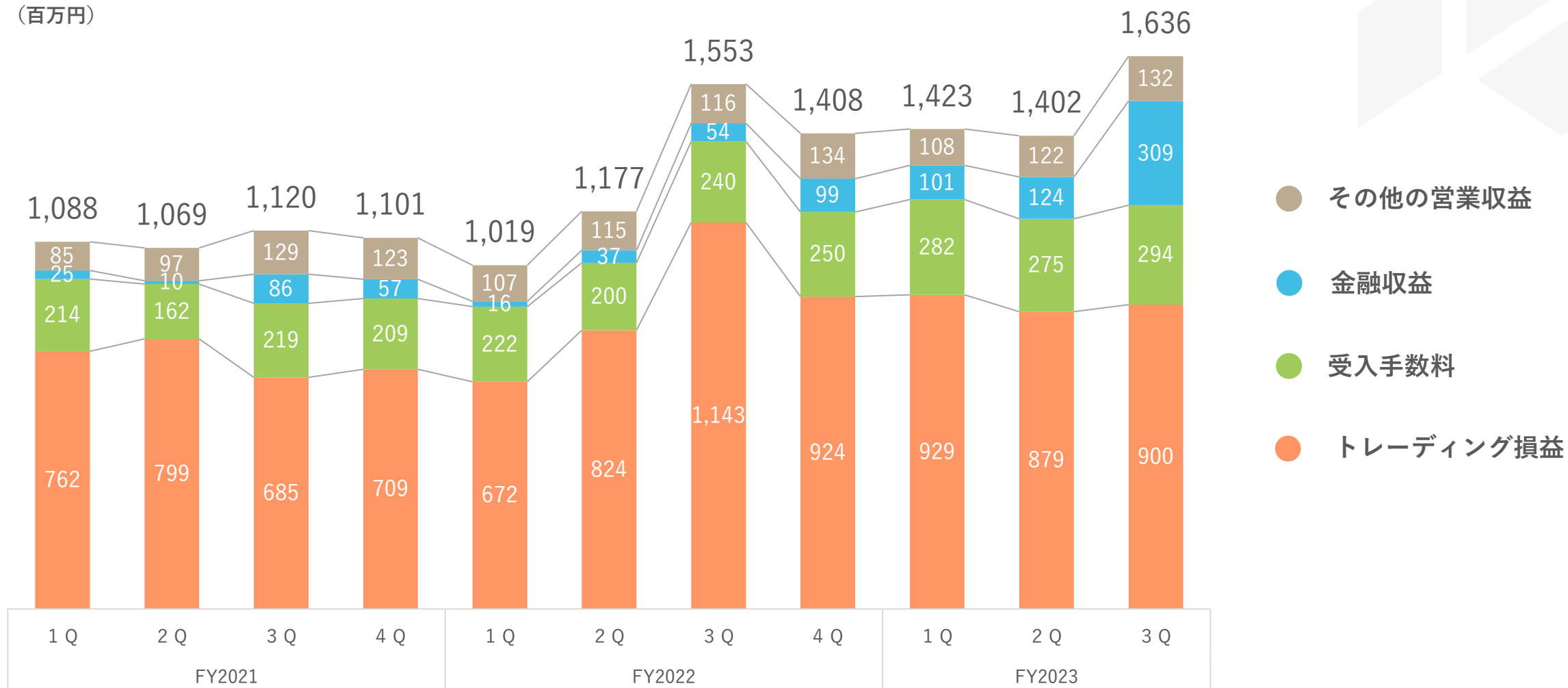
営業収益の内訳 | 2022.4 – 2022.12

米国の金利上昇の影響により金融収益が大幅に増加。為替相場市場の取引が増え、トレーディング損益、受入手数料は堅調に推移。



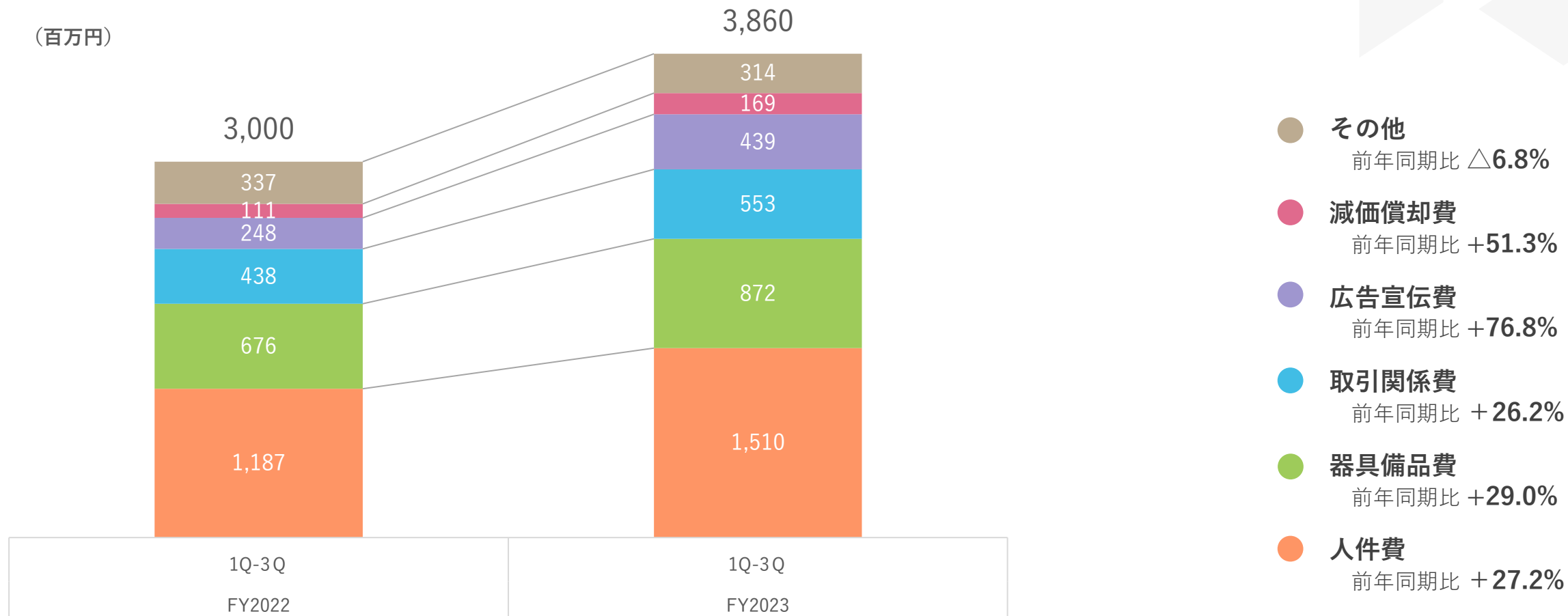
営業収益の推移 | 四半期別

(百万円)



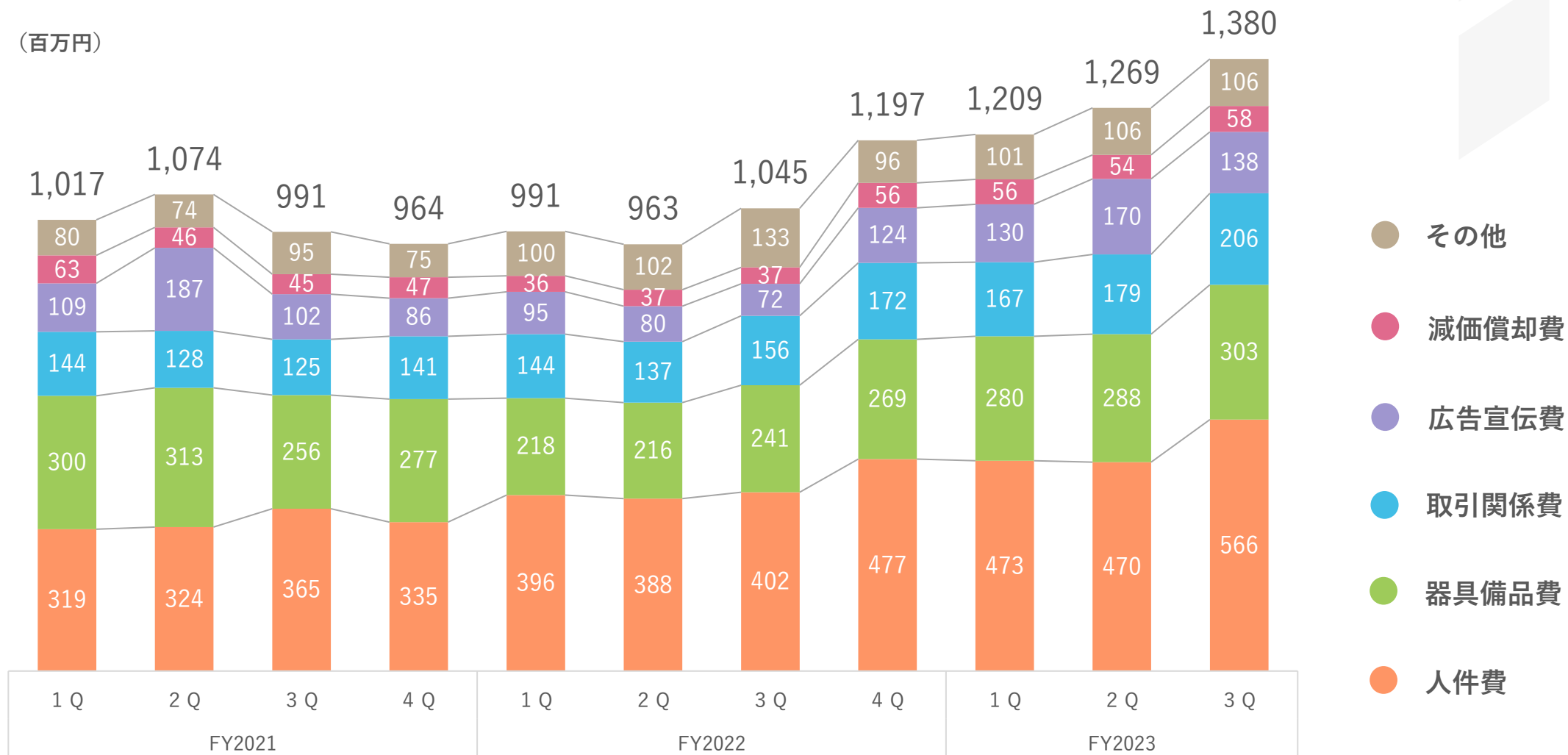
販売費・一般管理費の内訳 | 2022.4 – 2022.12

一般販管費合計は前年同期比+28.6%の38億60百万円。事業拡大のため人件費が増加。新サービス「マイメイト」のリリースによりシステム関連費および広告費等が増加。



販売費・一般管理費の推移 | 四半期別

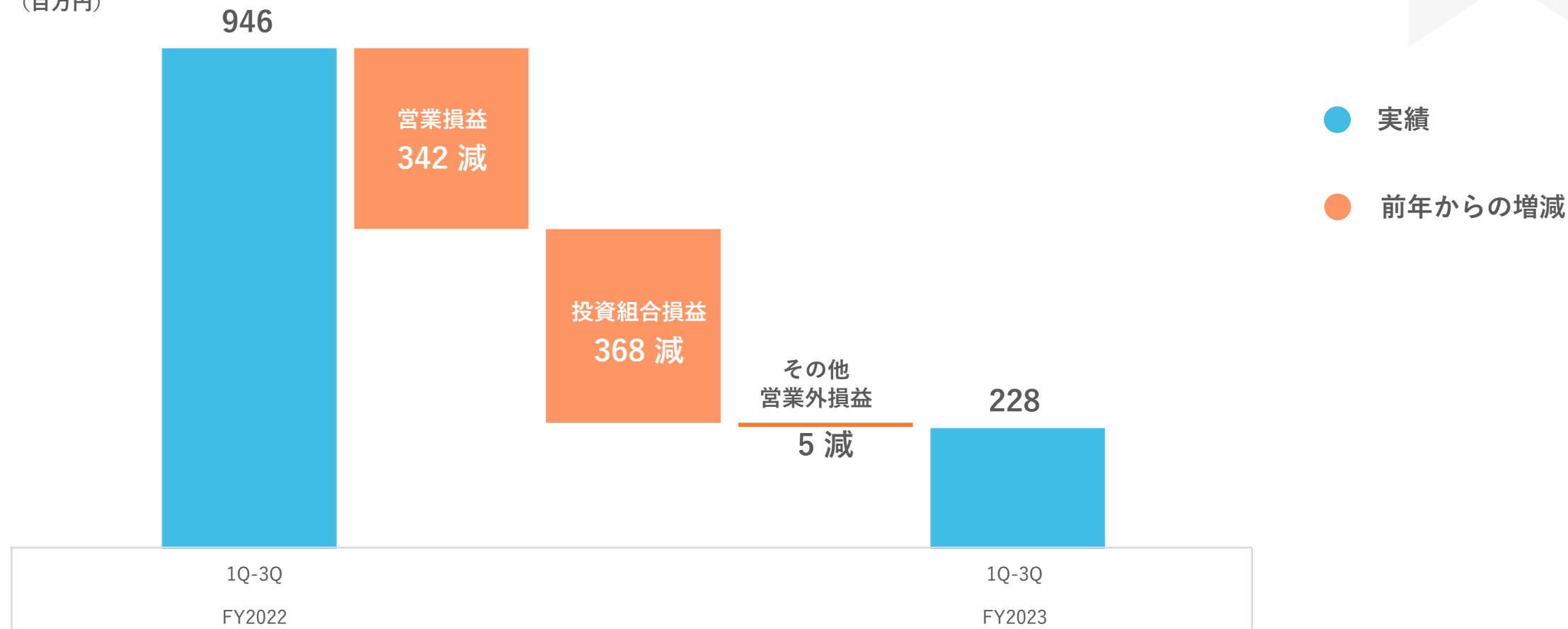
(百万円)



経常利益の増減要因 | 2022.4 – 2022.12

経常利益は前年同期比 7 億17百万円の減少。そのうち前年同期に計上したファンド運用益2億93百万円が当期では74百万円の損失に転じたため合計 3 億68百万円の減少となり全体の50%と大きく影響した。

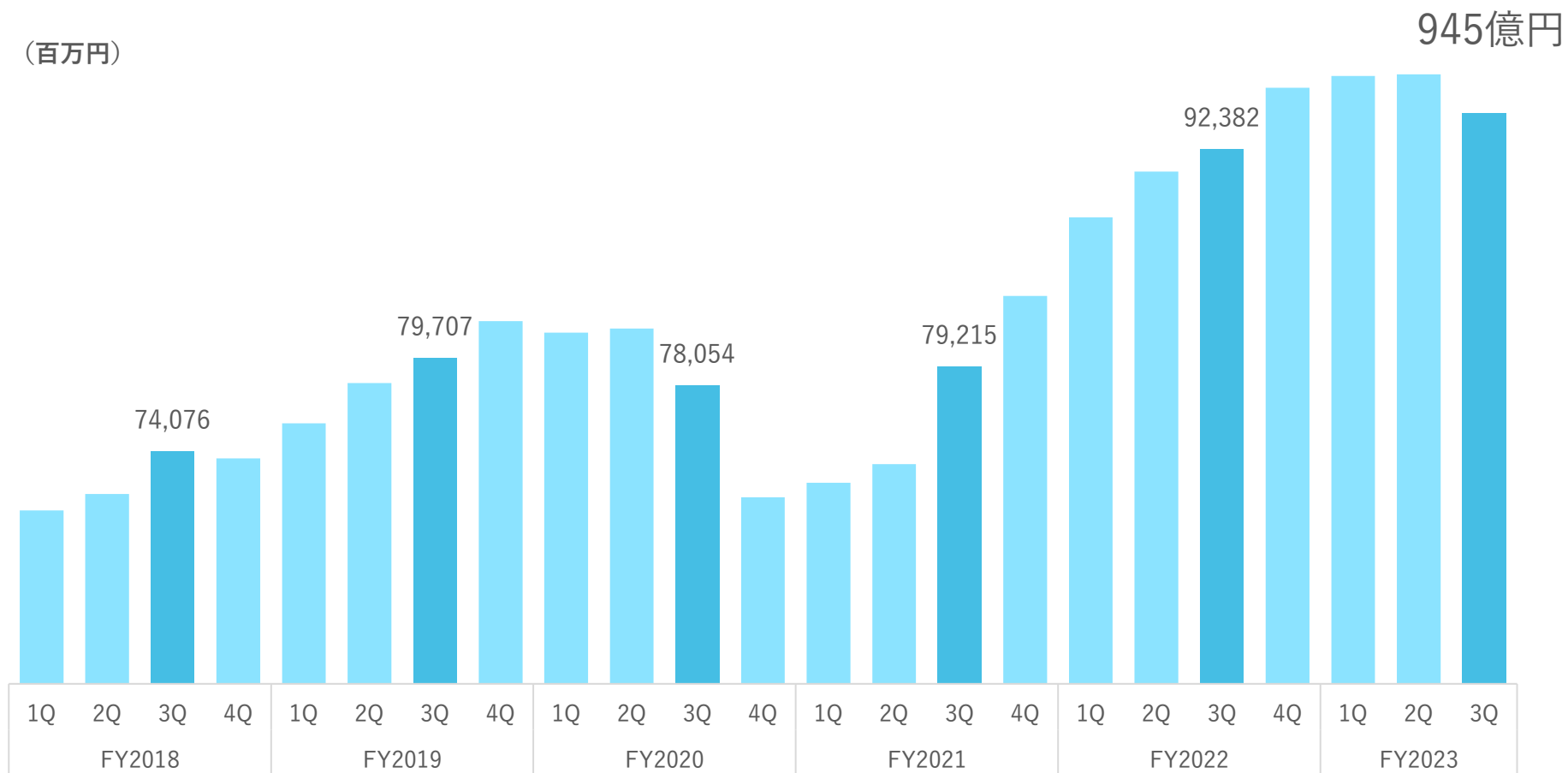
(百万円)



預り証拠金残高の推移 | 連結

預り証拠金残高は945億74百万円、前年同期比 21億円増となった。

(百万円)



※連結子会社IFSの決算日が12月31日のためIFSの数値は3ヶ月前の値で試算

取引量は相場のボラティリティにより変動するため、「収益の源泉」であり「お客様からの信頼の証」となる**預かり証拠金残高**は重要な指標となります。

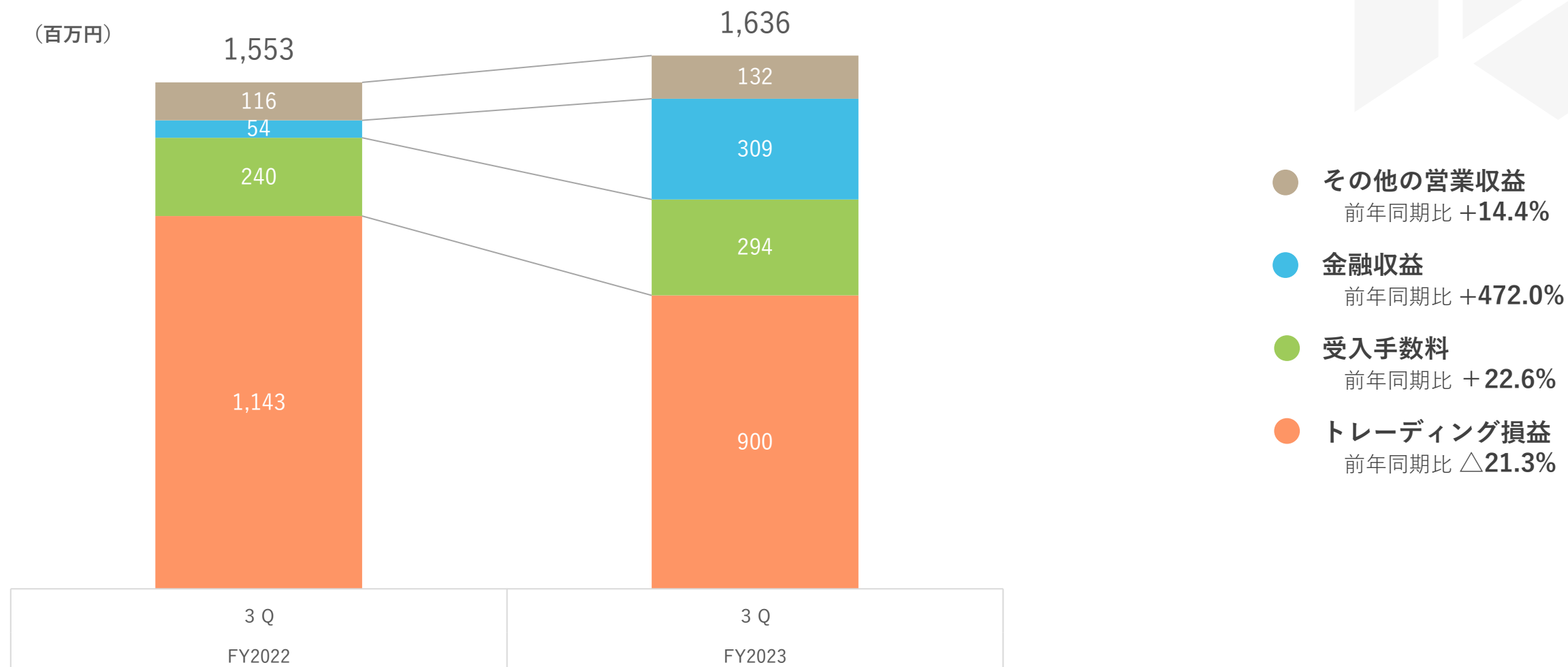
第3四半期
業績サマリー
[2022.10-12]

前年同期比 | 第3四半期業績 | 2022.10-2022.12

純営業収益は前年同期比と同水準となったが、将来的な収益基盤の拡大を目指し人件費や広告費および機能追加等によるシステム関連費を先行投資していることから減益となった。

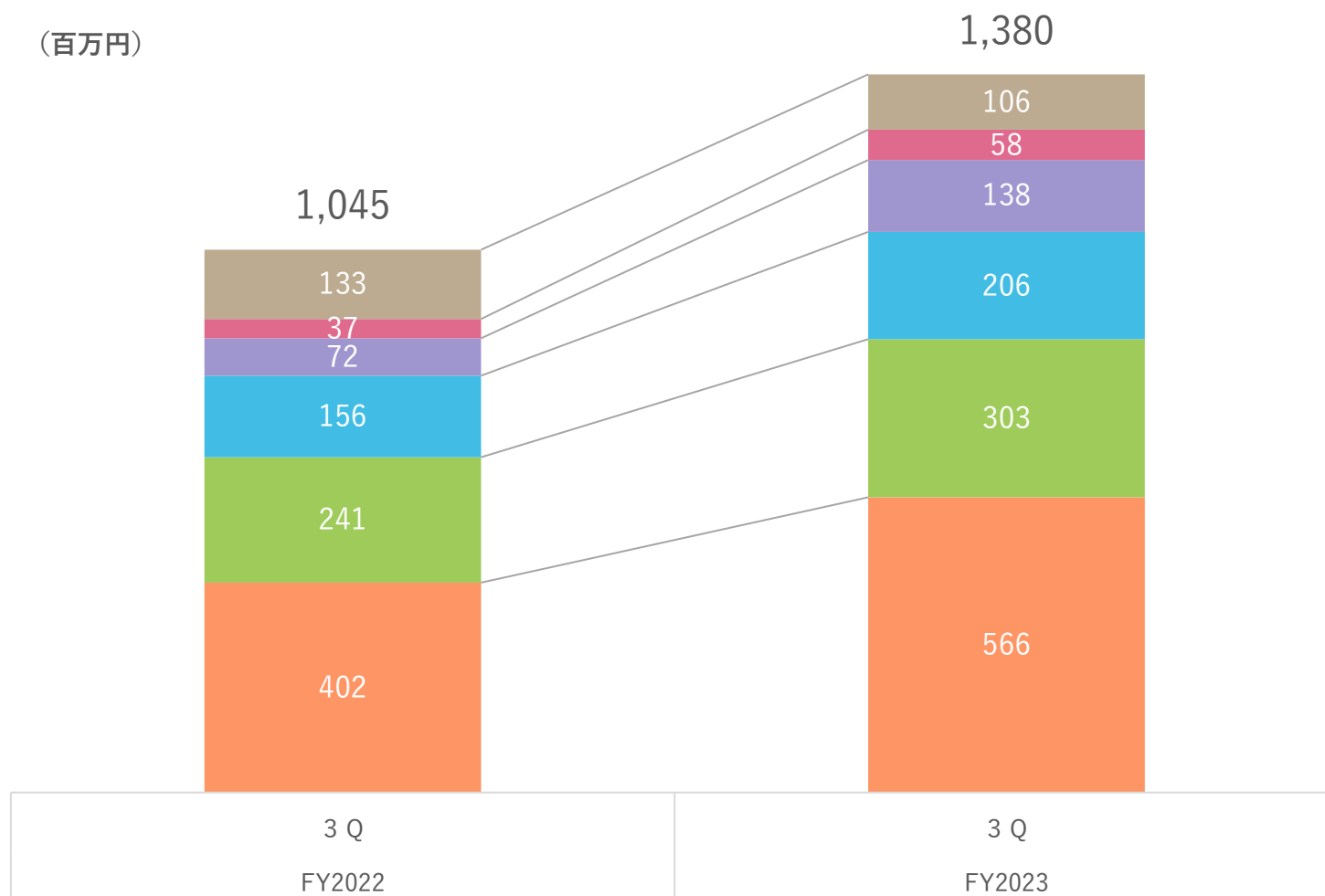
単位：百万円	2022年3月期 3Q (2021.10-12)	2023年3月期 3Q (2022.10-12)	対前年同期比 増減率
営業収益	1,553	1,636	+ 5.4%
純営業収益	1,511	1,511	+ 0.0%
営業利益	465	130	△ 71.9%
経常利益	407	167	△ 59.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	261	92	△ 64.6%

前年同期比 | 第3四半期 営業収益内訳 | 2022.10-2022.12



前年同期比 | 第3四半期 販売費・一般管理費 | 2022.10-2022.12

(百万円)



- その他
前年同期比 Δ 20.2%
- 減価償却費
前年同期比 +53.2%
- 広告宣伝費
前年同期比 +90.4%
- 取引関係費
前年同期比 +31.7%
- 器具備品費
前年同期比 +25.8%
- 人件費
前年同期比 +40.8%

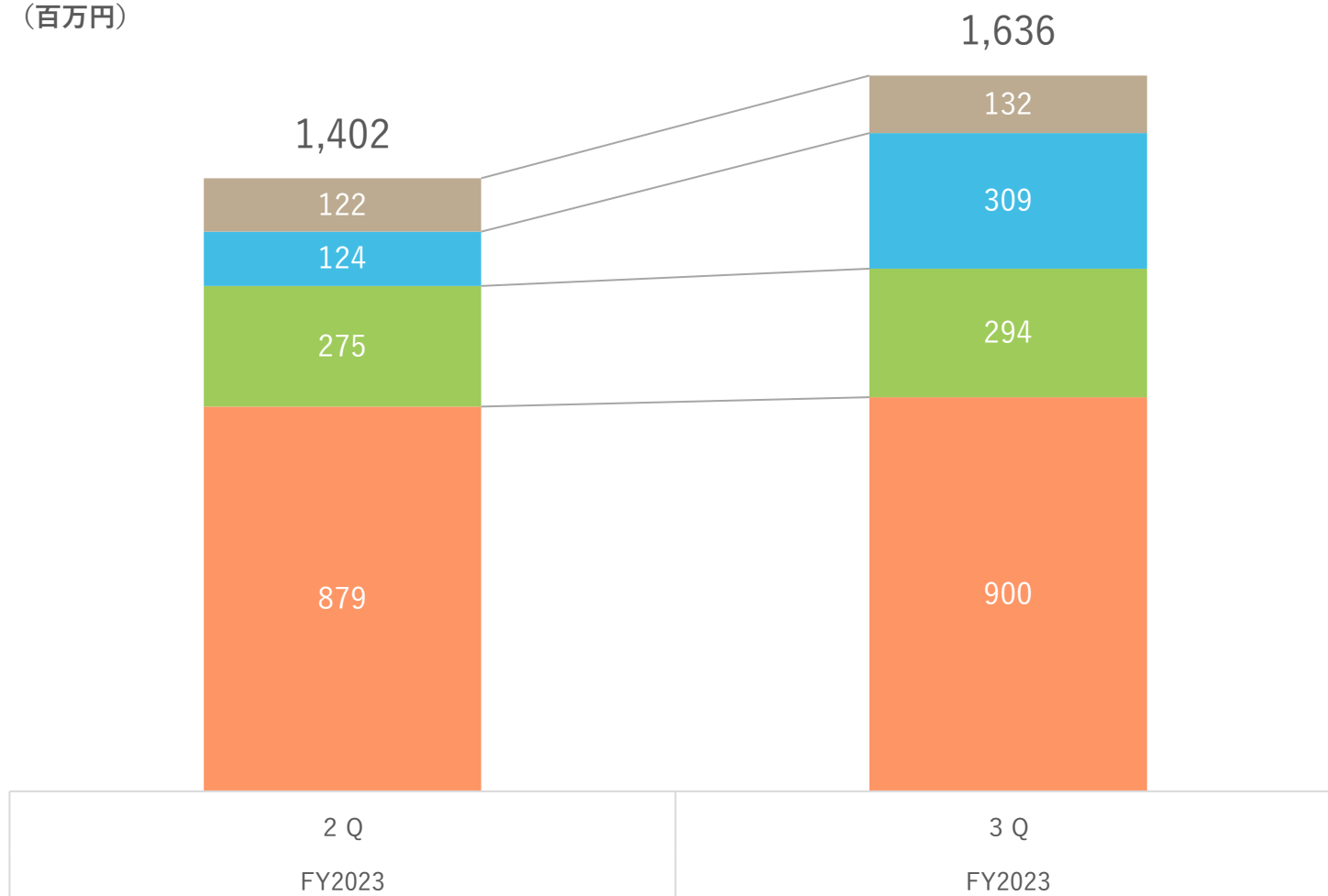
直前四半期比 | 第3四半期業績 | 2022.10-2022.12

為替市場が活況だったため増収となり、第2四半期で計上したファンド損失43百万円が当第3四半期では利益に転じ、ファンド運用益32百万円を計上したことで大幅増益となった。

単位：百万円	2023年3月期 2Q(2022.7-9)	2023年3月期 3Q(2022.10-12)	対直前四半期比 増減率
営業収益	1,402	1,636	+16.7%
純営業収益	1,350	1,511	+11.9%
営業利益	80	130	+62.9%
経常利益	20	167	+724.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2	92	+4373.9%

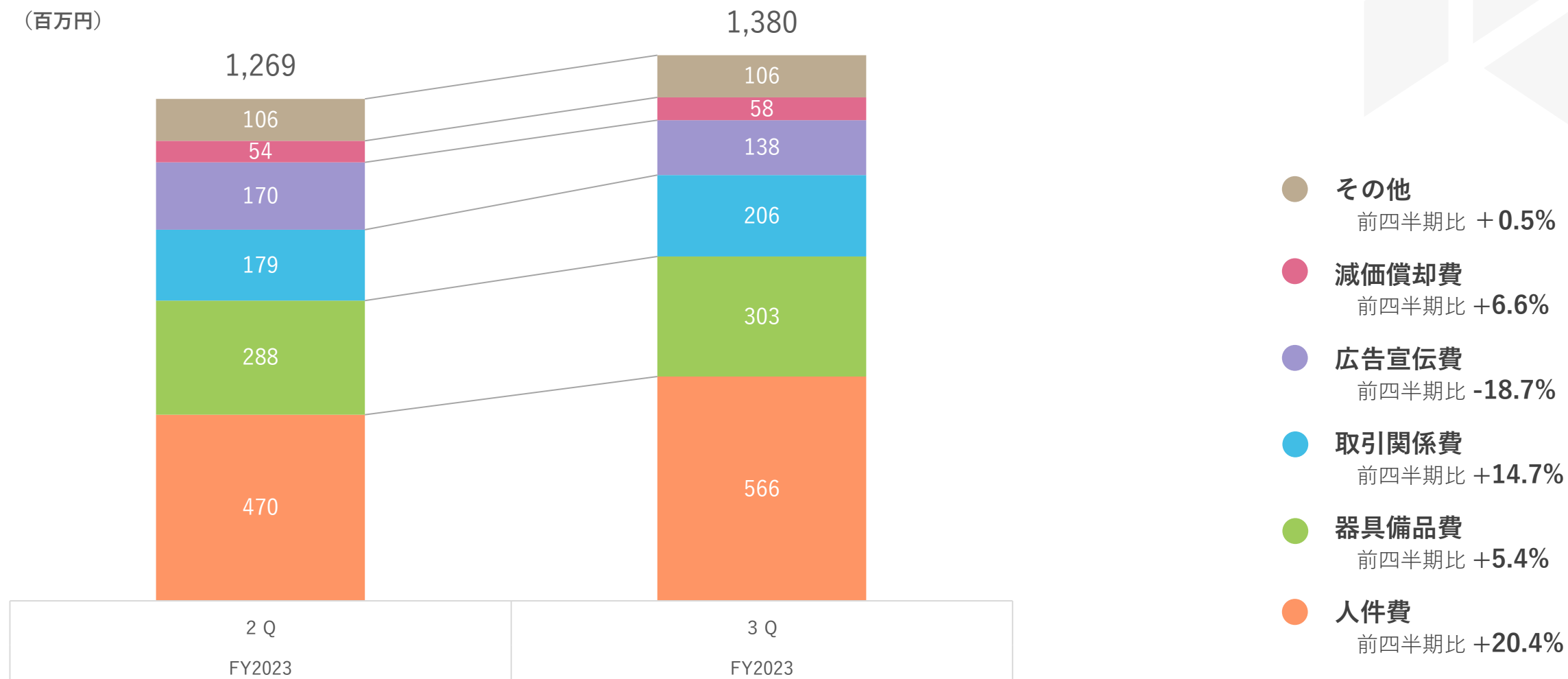
直前四半期比 | 第3四半期 営業収益 | 2022.10-2022.12

(百万円)



- **その他の営業収益**
直前四半期比 +8.6%
- **金融収益**
直前四半期比 +147.5%
- **受入手数料**
直前四半期比 +7.0%
- **トレーディング損益**
直前四半期比 +2.3%

直前四半期比 | 第3四半期 販売費・一般管理費 | 2022.10-2022.12



国内金融事業 ハイライト

第3四半期
セグメント情報



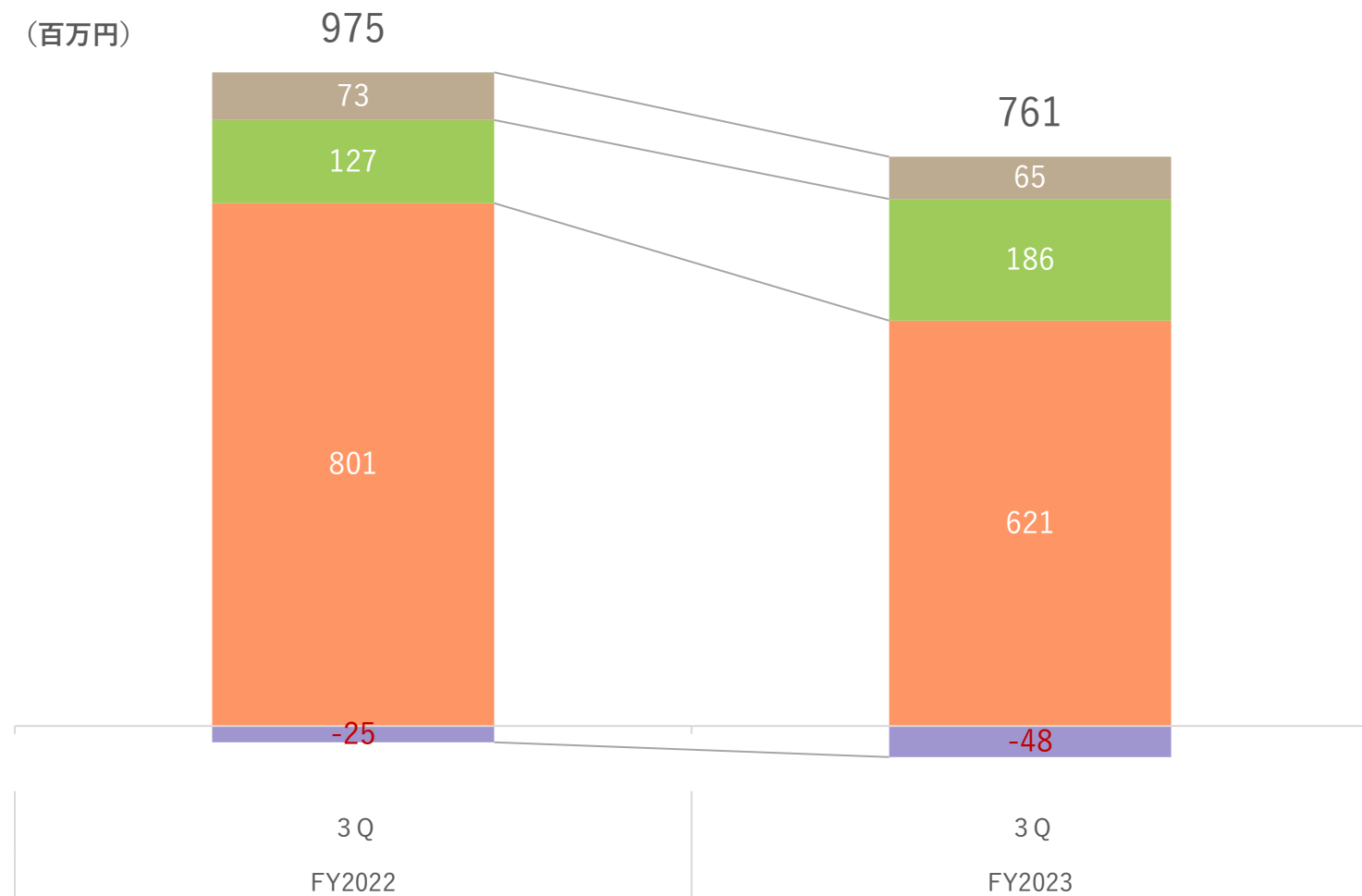
セグメント業績サマリー | 第3四半期 | 2022.10-2022.12

前年同期に最高値を更新した米国株式の下落により店頭CFDの取引が減少し減収。新サービスリリースによる器具備品費等や積極的な広告施策により広告費が増加し減益となった。

単位：百万円	2022年3月期 3Q(2021.10-12)	2023年3月期 3Q(2022.10-12)	対前年同期比 増減率
純営業収益	975	761	△21.9%
販売費・一般管理費	622	752	+20.9%
営業利益	352	8	△97.5%

純営業収益の内訳 | 2022.10-2022.12

(百万円)

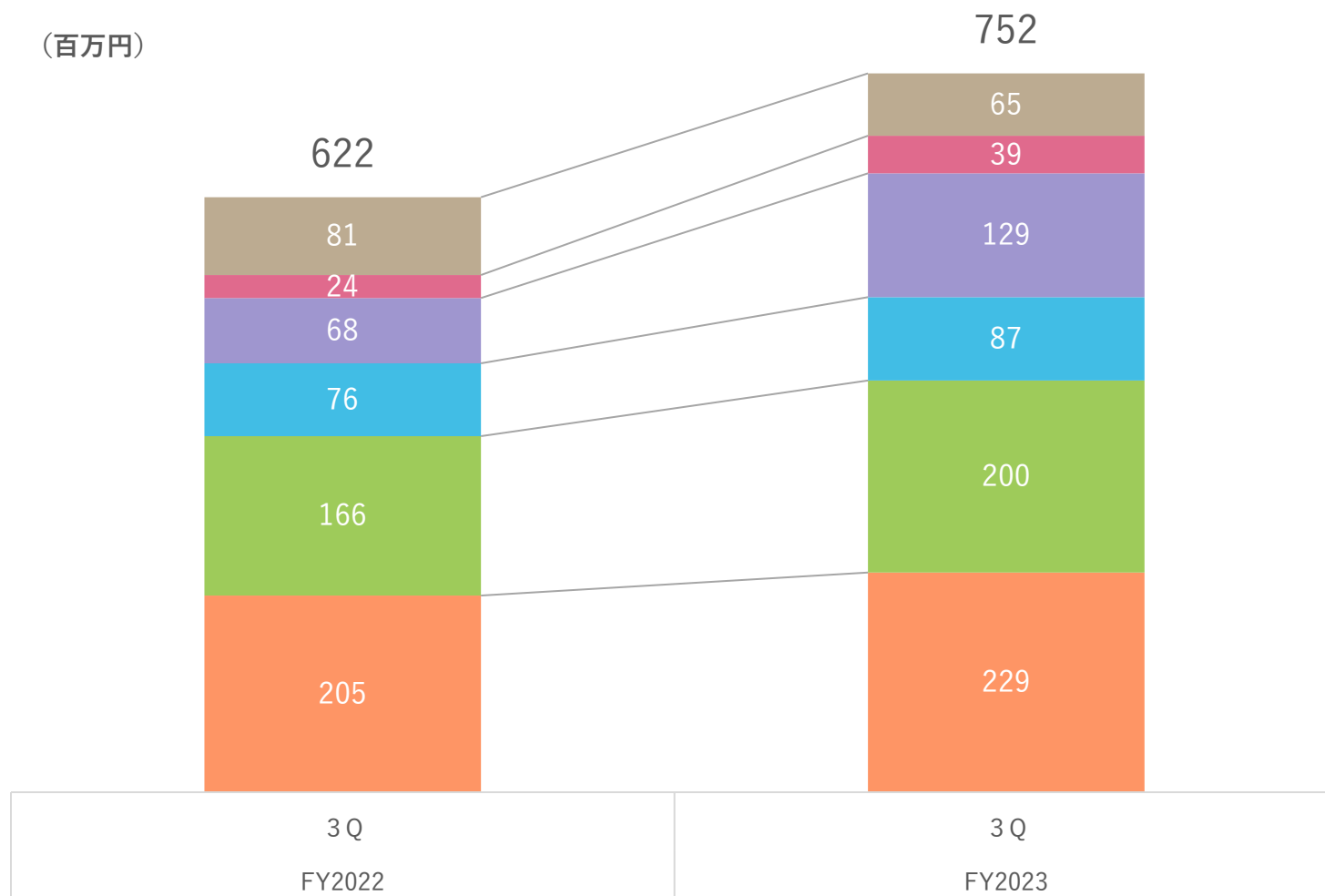


- その他営業収益
前年同期比 Δ 11.1%
- 受入手数料
前年同期比 +46.5%
- トレーディング損益等
前年同期比 Δ 22.5%
- その他金融費用

※セグメント間調整額を除く

販売費・一般管理費の内訳 | 2022.10-2022.12

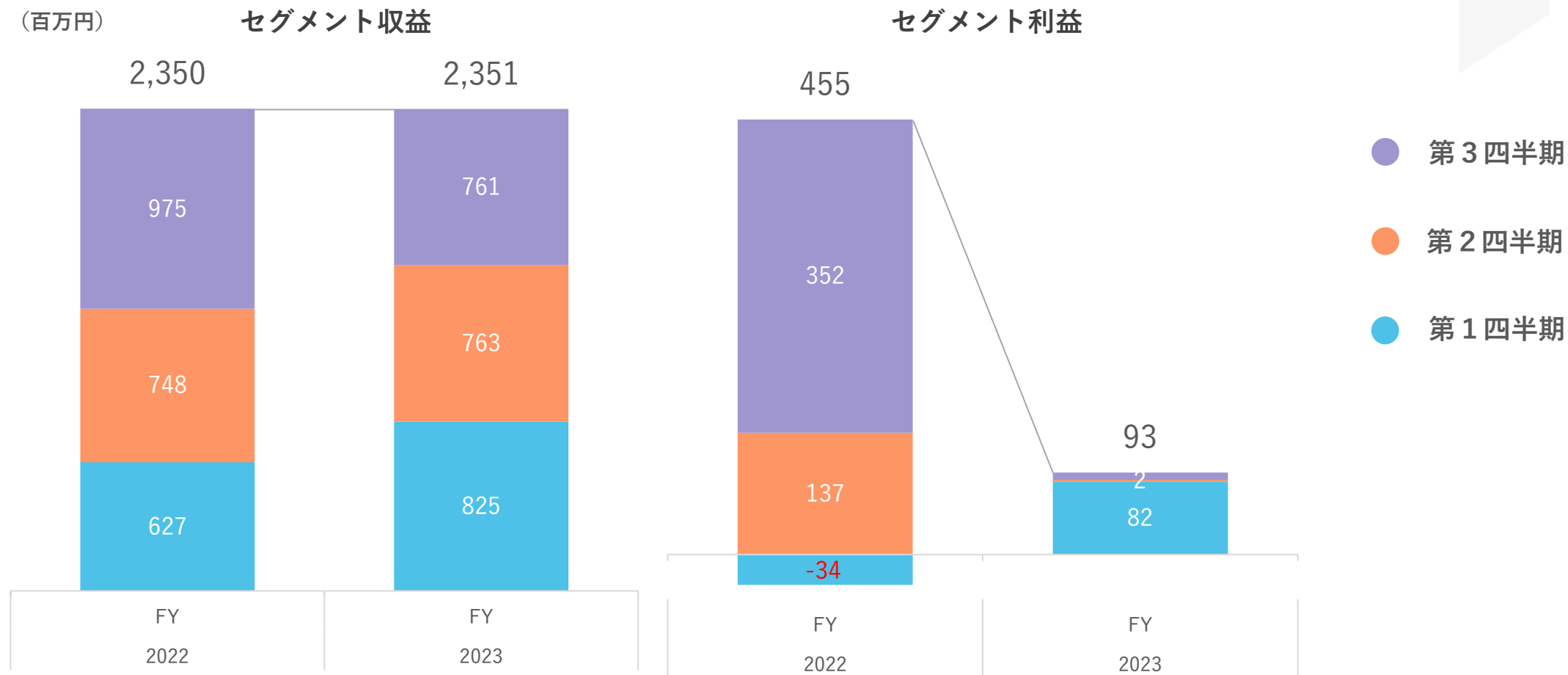
(百万円)



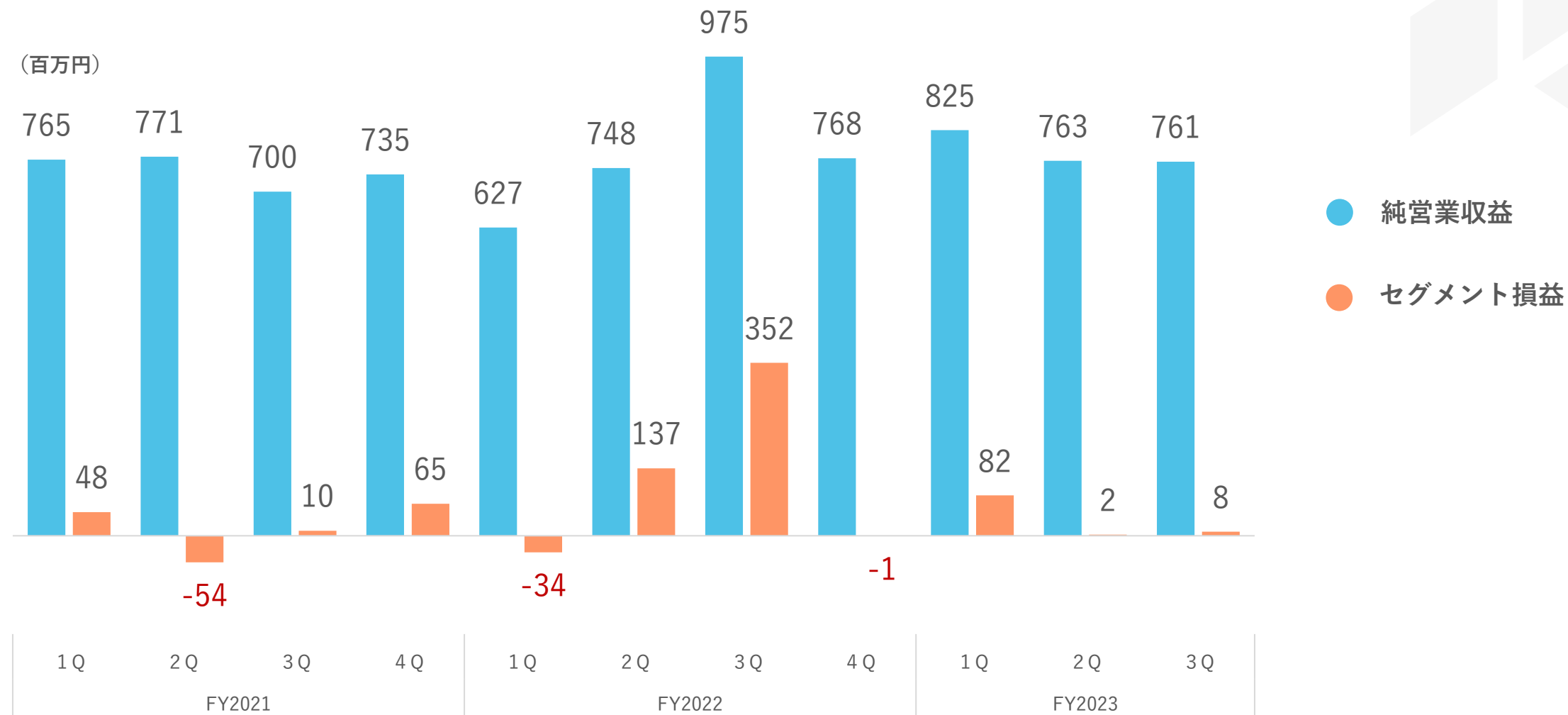
- **その他**
前年同期比 △19.9%
- **減価償却費**
前年同期比 +63.1%
- **広告宣伝費**
前年同期比 +90.4%
- **取引関係費**
前年同期比 +14.8%
- **器具備品費**
前年同期比 +20.7%
- **人件費**
前年同期比 +11.7%

純営業収益・営業利益 | 2022.4-2022.12

純営業収益は前年同期比と同水準となり、営業利益は前年同期比△79.5%となった。



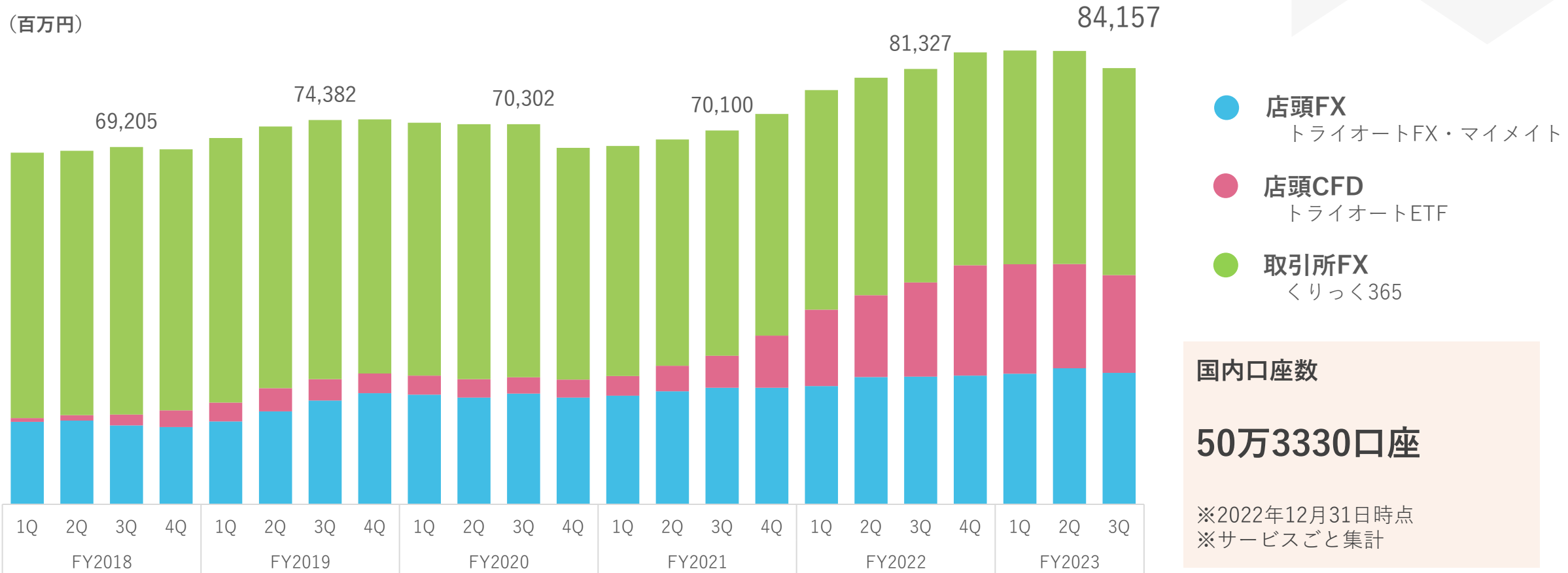
純営業収益・営業利益の推移



預り証拠金残高推移と口座数

預り証拠金残高は前年同期比28億円増の841億57百万円。

口座開設数は広告強化によりマイメイトが増加し、サービス統合以来50万口座超となった。



2022年12月、資産形成のニーズに対応するため新たな事業子会社を設立

当社グループは、「2025年までに全世界で1,000万人の利用者を持つ金融ソリューションを生み出す」という経営ミッションを掲げ、金融市場のあらゆる資産クラスにわたるサービスの提供においてグローバルな存在となることを目指しております。

国内金融事業の主要子会社であるインヴァスト証券は、自動売買ソリューションの提供や、顧客の運用成績向上に資する高付加価値サービスの開発等に注力し、商品・サービスの開発・改善を継続的に行っております。

こうしたグループ内のノウハウを活用することで、FX／CFD等のデリバティブ取引に限らず、高まりつつある資産形成に向けたコンサルティングやアドバイスへのニーズに対応することを目的として、新会社「株式会社アルカド」を設立いたしました。

※設立する子会社の概要はプレスリリース「子会社設立に関するお知らせ」をご確認ください。

海外金融事業 ハイライト

第3四半期
セグメント情報



セグメント業績サマリー | 第3四半期 | 2022.7-2022.9

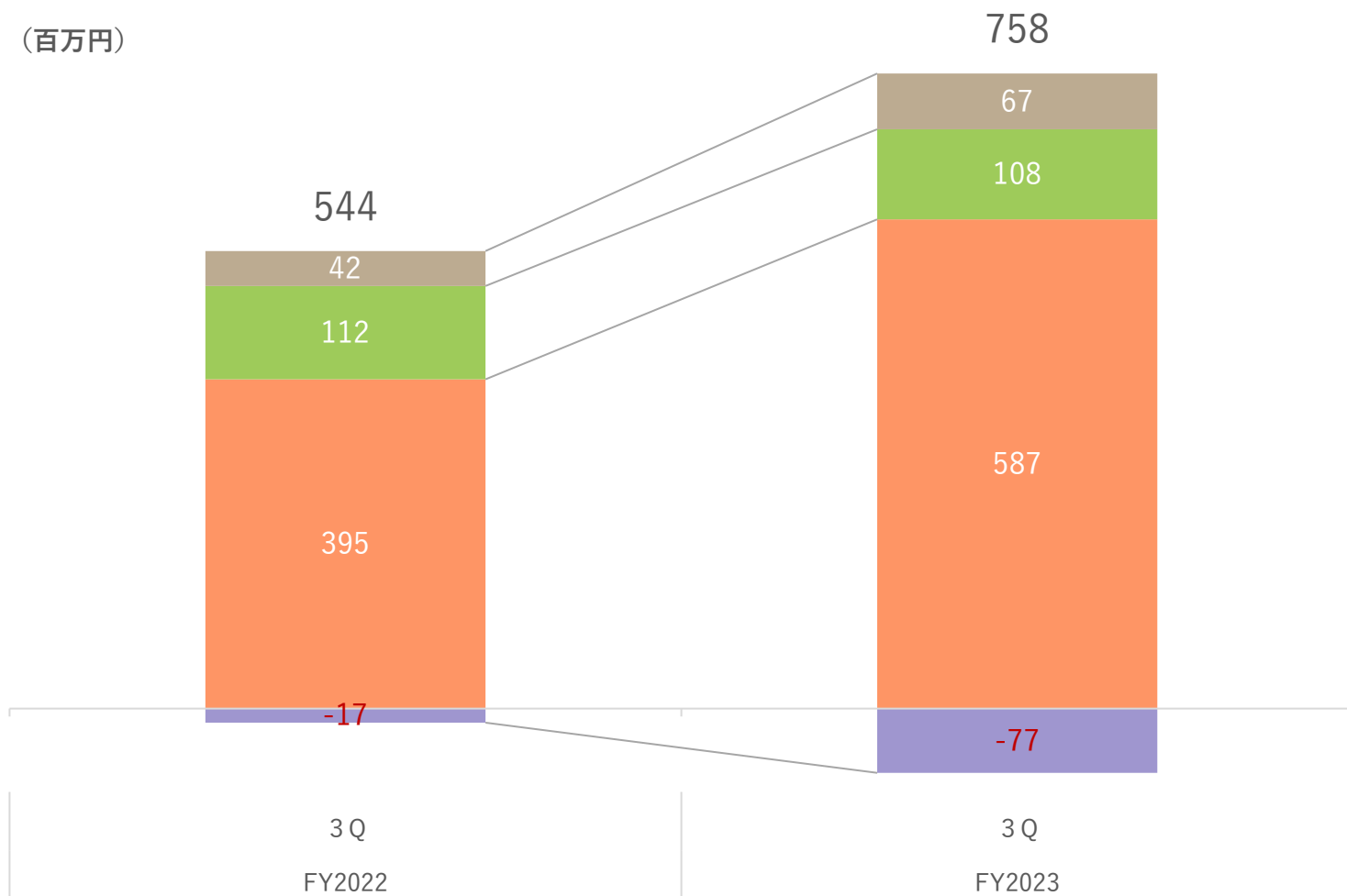
為替を中心に取引量が増加したことや金利上昇による金利収入の増加および円安の影響を受け、四半期ベースでの純営業収益は過去最高となった。

単位：百万円	2022年3月期 3Q(2021.7-9)	2023年3月期 3Q(2022.7-9)	対前年同期比 増減率
純営業収益	544	758	+39.3%
販売費・一般管理費	431	636	+47.6%
営業利益	113	121	+7.5%

※海外金融事業は決算日が12月末日のため、第3四半期は2022年7月1日～9月30日の実績値となります。

純営業収益の内訳 | 第3四半期 | 2022.7-2022.9

(百万円)

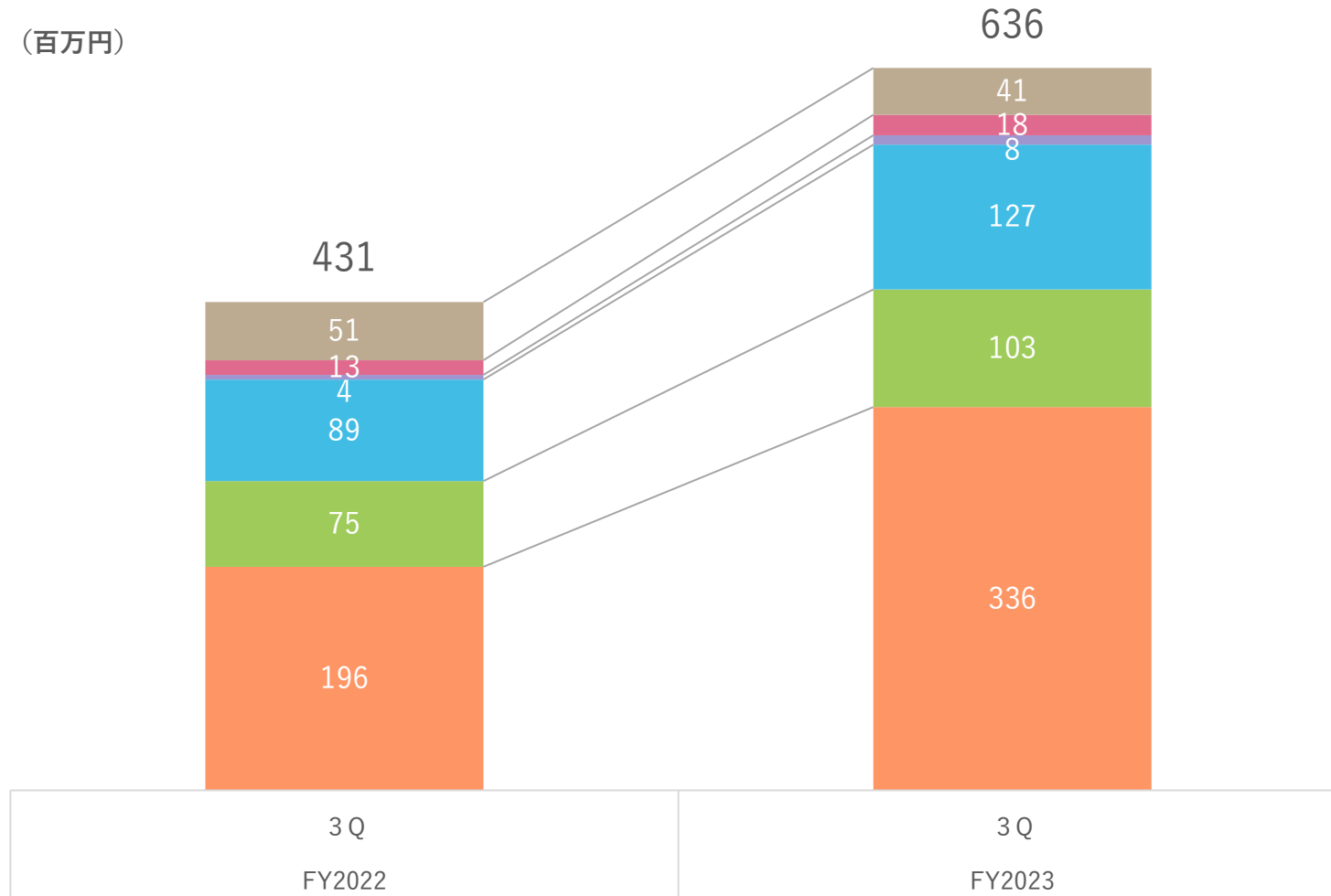


- その他営業収益
前年同期比 +58.6%
- 受入手数料
前年同期比 △4.2%
- トレーディング損益等
前年同期比 +48.7%
- その他金融費用

※セグメント間調整額を除く

販売費・一般管理費の内訳 | 第3四半期 | 2022.7-2022.9

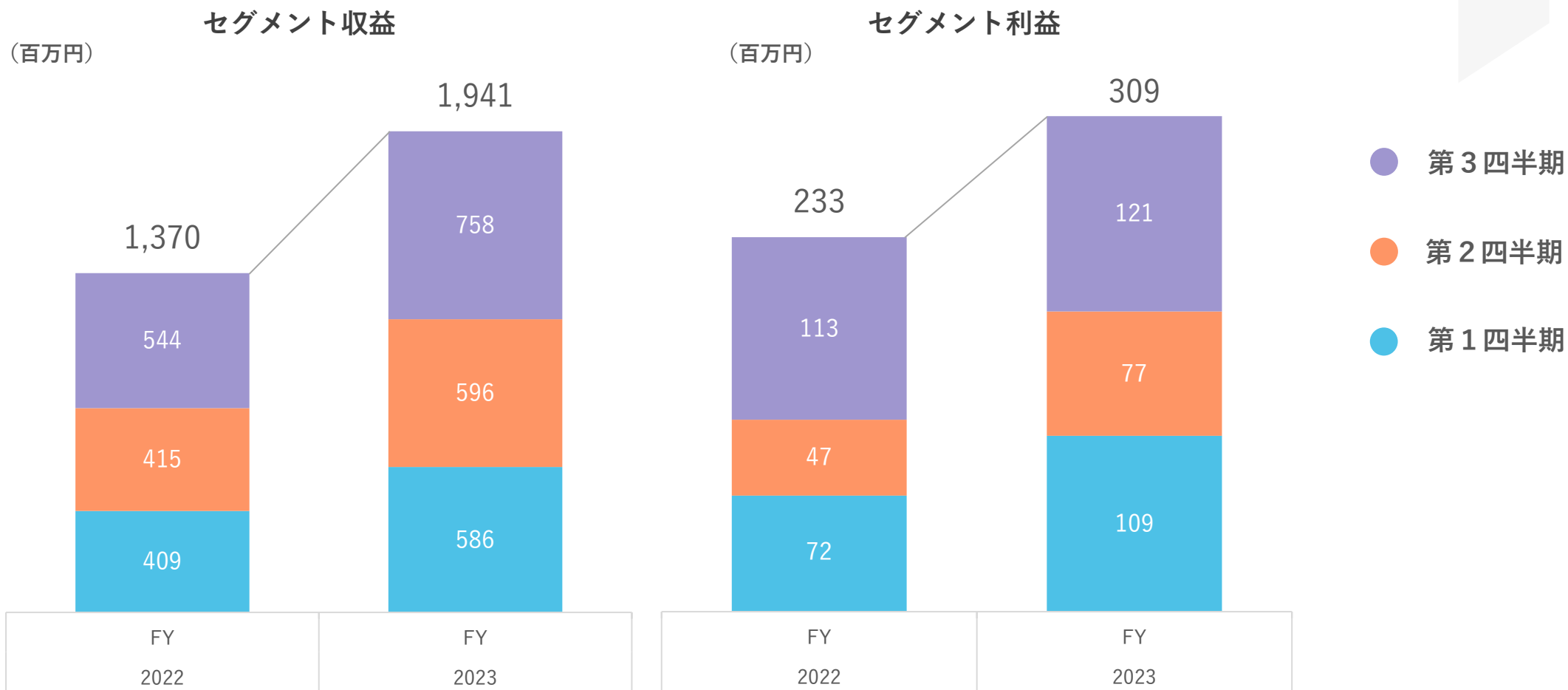
(百万円)



- **その他**
前年同期比 △20.6%
- **減価償却費**
前年同期比 +35.9%
- **広告宣伝費**
前年同期比 +91.2%
- **取引関係費**
前年同期比 +43.7%
- **器具備品費**
前年同期比 +37.3%
- **人件費**
前年同期比 +71.2%

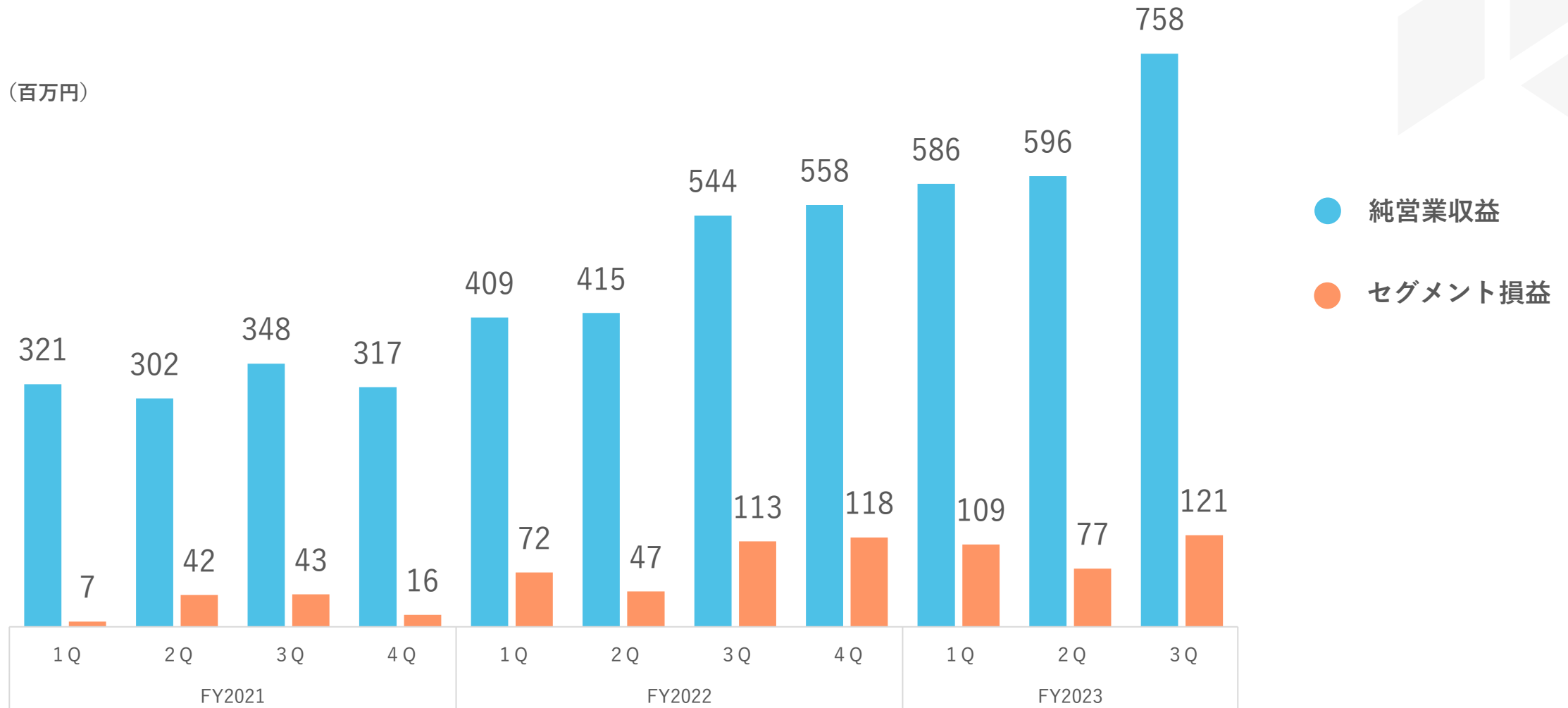
純営業収益・営業利益 | 2022.1-2022.9

純営業収益が前年同期比+41.7%、営業利益は前年同期比+32.7%となった。



純営業収益・営業利益の推移

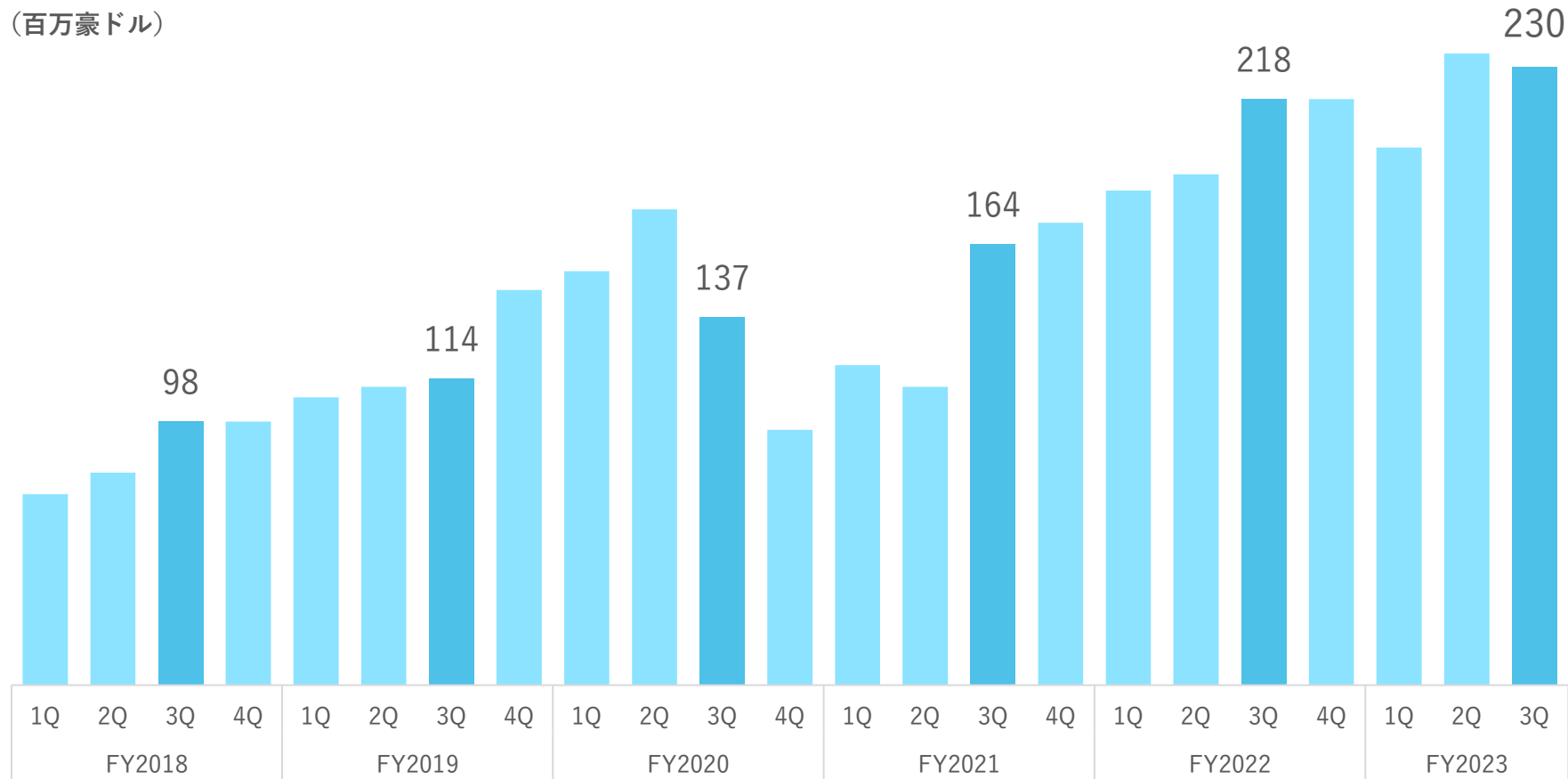
(百万円)



預かり証拠金残高推移

預り証拠金残高は前年同期比 +5.4% の 2 億30百万豪ドル

(百万豪ドル)



※海外金融事業は決算日が12月末日のため数値は3ヶ月前の値となり、第3四半期は2022年9月30日時点の預かり証拠金残高となっています。

GMOフィナンシャルホールディングス株式会社から英国子会社買収を発表



海外金融事業は世界各国のブローカー、ヘッジファンド等に対しFXを中心とするデリバティブ取引を提供しています。そのため成長戦略において、地理的拠点の拡大は最重要ファクターとなっています。

多くの法人顧客が拠点を持ち、金融分野に精通したグローバルに活躍できる優秀な人材が集う金融大都市のイギリスに拠点を持つことは人材および顧客基盤のさらなる強化や取引先等との良好な関係の構築など様々なシナジーが見込まれます。

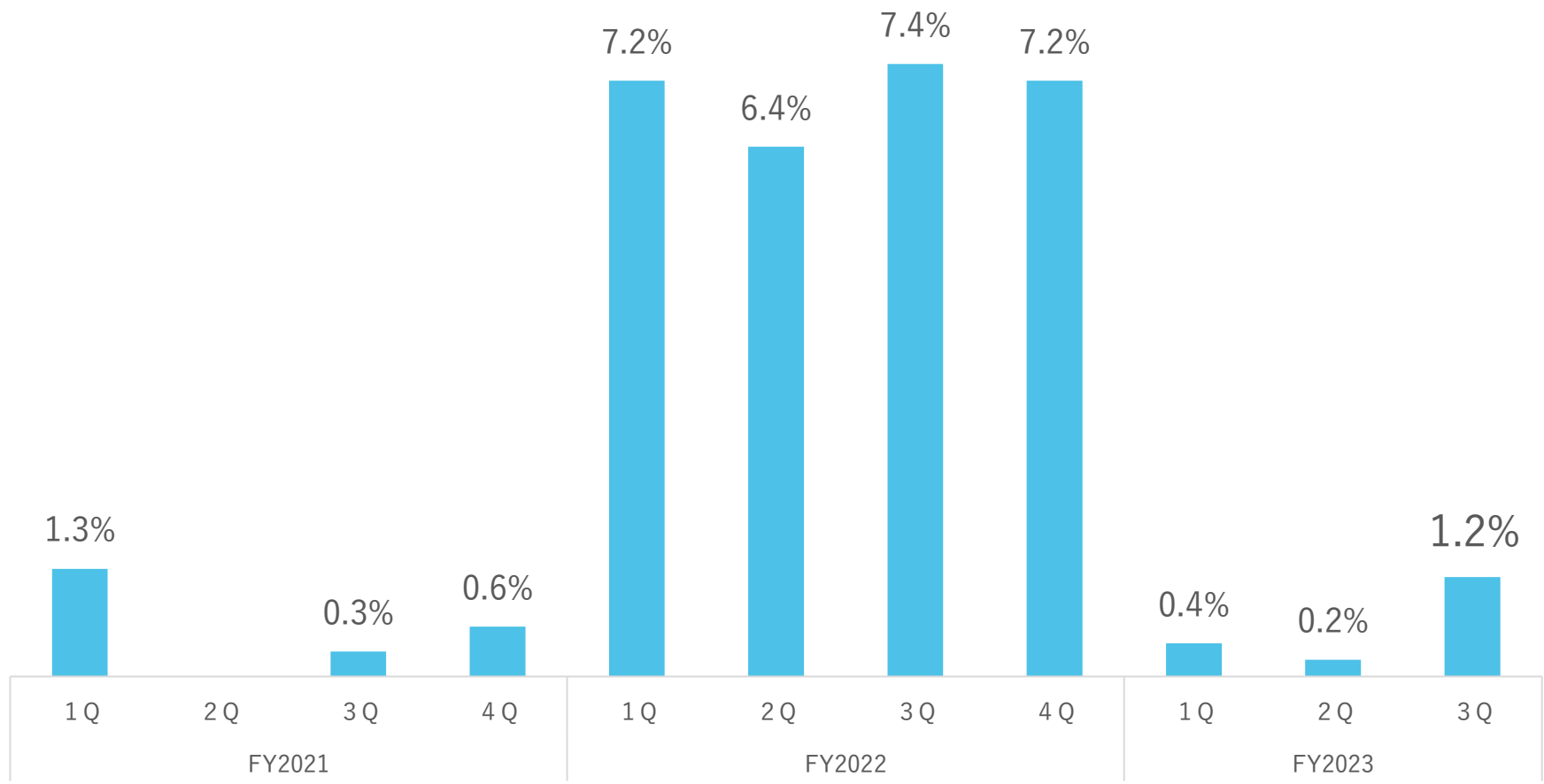
※株式譲渡の実行は英国金融行為規制機構（FCA）の承認を得ることを前提としております。発表内容の詳細はプレスリリースをご確認ください。

ROE
株主還元



株主資本利益率（ROE）

第3四半期の株主資本利益率（ROE）は 1.2%



※四半期ROEは四半期純利益の平均値を年換算して算出しております。例）第3四半期は(第3四半期純利益/3)×4

株主還元

2023年3月期は 1株あたり 38円 を配当予定

配当利回り（予想） **5.0%※1**

※1 配当利回りは2022年12月30日の終値「760円」で算出

配当方針

当社は株主の皆様へ安定的な株主還元の継続を前提としつつ、業績に応じた適切な利益還元を行うことを基本方針としています。

そのため、以下のいずれか高い方を目安とし、中間・期末の年2回の余剰金の配当を行ってまいります。

- ・ 連結配当性向30%
- ・ 連結純資産配当率(DOE) 2%(年率)

注) 今期の配当は予想であり保証するものではありません。

配当実績と予想

決算期		2021年 3 月期	2022年 3 月期	2023年 3 月期
1 株当たり 配当金額 (円)	中間	18.0 ※3	18.0	19.0
	期末	19.0	24.0	19.0 (予想)
	合計	37.0	42.0	38.0 (予想)
当期純利益(百万円)		60	808	
配当総額(百万円)		217	246	
配当性向		359.6%	30.5%	
ROE		0.6%	7.2%	
DOE		2.0%	2.2%	
配当利回り ※2		5.2%	4.6%	

※2：配当利回りは各年度末日の終値で算出

※3：2021年3月期中間はインヴァスト証券株式会社での配当実績

Mission/Vision
経営戦略

Mission

存在する目的

世界をもっと、良い場所にする

世界中の人々の金融面における課題を解決するソリューションを提供し、人々の幸せを通じて世界を「もっと良い場所」にする。私達の考える「もっと良い場所」とは、一生懸命働いている人が、ちゃんと豊かになれる世の中であり、優秀で、意欲のある学生が、お金を理由に未来の選択肢を諦めなくても良い世の中であり、どんな人でも、幸せになる為の資産形成が出来る世の中です。

私達のミッションは、世界中の人々が、それぞれに想い描く人生設計において、金融面の課題を解決するソリューションを生み出すこと、挑戦する人をサポートし、より多くの人々が人生を豊かにするためのチャンスをつかむ、お手伝いをすることです。

金融という側面から、世界中の人々の幸せを通じて、より良い世界の構築に貢献していきたいと考えております。

Vision

目指す姿

2025年までに全世界で1,000万人の利用者を持つ 金融ソリューションを生み出す

資産運用からスタートし、育児や教育、就職や結婚、資産形成など、世界中の人々の人生における様々な分野で、金融面の課題を解決するソリューションの創造を目指します。

私達は、全世界から集まった優秀な人材が、日々、本物のプロフェッショナルとしての責任を果たし、ビジョン達成の為に議論し、決断を下し、実行に移す、世界中に顧客を持つグローバル企業になります。その第一歩として、2025年までに全世界で1,000万人の利用者を持つ金融ソリューションを生み出します。

ビジョン達成に向けた経営戦略



経営戦略 (STAGE2 : 2020>>>2022年)

1 事業の継続的成長

- ▶ 国内金融事業:重点事業(トライオート、マイメイト)への経営資源集中
- ▶ 海外金融事業:プライムブローカレッジ市場におけるトップクラスのグローバルマーケットプレイヤーを目指す
- ▶ R&D、テクノロジー活用を軸とした商品・サービスの高度化

2 グループシナジーの追求

- ▶ 2020年10月、持株会社体制へ移行(株式移転完全親会社:インヴァスト株式会社の設立)
- ▶ 新規事業開始等の戦略実行にあたり、柔軟かつスピード感のある機動的な体制の構築
- ▶ 事業ポートフォリオの分散(投資助言、不動産ファイナンス事業等の比率アップ)
- ▶ グローバルベースでのシナジーの発揮(グループITマネジメント、共通業務の集約化による業務プロセス効率化等)
- ▶ 各子会社成長に加えてM&Aも活用

3 その他

- ▶ 企業ブランド価値向上(IR・PR)
- ▶ グローバル展開に対応しうる優秀な人材の獲得、組織の人材基盤強化

会社概要



会社名	インヴァスト株式会社 (英語名 INV Inc.)
住所	東京都中央区東日本橋一丁目5番6号
代表者名	代表取締役社長 川路 猛
設立日	2020年10月1日
資本金	5億円
事業内容	グループ会社の経営管理および新規事業開発
主要な子会社	インヴァスト証券株式会社、Invast Financial Services Pty Ltd、 インヴァストキャピタルマネジメント株式会社
証券コード	東京証券取引所 スタンダード 7338

免責事項

本資料に掲載されている情報は、当社グループの事業の情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載されている情報には、将来の見通しに関する記述が含まれています。
将来の見通しに関する記述には、様々なリスクや不確定要因が伴うため、
現実の結果が将来の見通しに関する記述に含まれる内容または将来の見通しに関する記述で
示唆されている内容と大きく変わる可能性があります。

本資料に掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、
その時点で提供可能な情報であり、その完全性、正確性、適用性、有用性等いかなる保証も行っておりません。

掲載された情報に基づく判断については、利用者の責任のもとに行うこととし、
当社はこれにかかわる一切の責任を負うものではありません。
